

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500155		
法人名	愛らいふサービス株式会社		
事業所名	ラ・セゾン		
所在地	大阪府池田市井口堂3丁目10番7号		
自己評価作成日	R3年10月13日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年11月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族、医療関係者、地域の方、職員同士が協力し合いし、情報を共有し、チームで支援できるように努めています。ご家族とは常に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう努めています。また、医療面では管理者が看護師という事もあり、医療の目からも異常の早期発見に努め、系列の訪問看護と連携を図り、素早い対応を心掛けています。そして、職員が一人ひとりの考えや意見を傾聴し、その人に愛とまごころを持って寄り添ったケアを目指して、また利用者様の生活史や、好きなことなどをレクリエーションに取り入れるよう努めています。そして必要に応じて研修を行い、職員全員がスキルアップに努め、事業所の理念でもある「その人らしい暮らし」が利用者様全員が送れるよう施設全体がまとまって取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛らいふサービス(株)の介護関連事業所の1つとして開設7年8ヶ月、住宅街に在って1階をデイサービス、2階をグループホームとしている。管理者が看護師資格を持ち、日常的に健康管理が行き届き利用者は安心を得ている。4名の主治医の協力の下、医療連携体制加算Ⅲの導入は地域にとっても心強いものである。元寿司職の調理専任での美味しい食事や手作りおやつが喜ばれている。利用者夫々の人生体験や現況の生き方に学ぶものが多いとする職員の日々のケア力は丁寧な洗濯物たたみや掃除などに現れ、能動的な日常を支え、笑い声が絶えないリビングの様子に現れている。コロナ終息後は、地域ボランティアや高校生の訪問ボランティアの再活動を受け入れ、多様な外出支援に努めたいとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで話し合い、地域密着型サービスをふまえた事業所理念を共有し、理念に基づいたケアを実践しています	法人が主眼とする 慈しみ・敬意・地域密着を基に、「その人らしい暮らしを 地域と共に、愛と真心で寄り添う」を事業所理念としてリビングに掲げ、日々の気づきを話し合い、毎月交代で「今月の目標」を立てケア力向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染予防の為現在、地域活動の中止などもあり参加が難しい状態です 近隣の高校生より季節のポスターを頂き壁に飾らせて頂いたり、入居者ご家族様の畑で取れた野菜を頂いたりしています	従来の地域行事参加や各種ボランティアの導入、中学生の体験実習の受け入れなどは全て中止を余儀なくされている。高校生のポスター寄贈や季節野菜の差し入れを受け、散歩時の挨拶などで近隣とのお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常では運営推進会議の出席を促進したり、病院などで行っている勉強会に参加したりしていましたが、今回コロナ禍の為、これらの活動は差し控えています 今後はズームでの参加できる研修会に参加して行こうと思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営委員会推進会議も中止していますが、活動記録を市役所地域支援課に報告、民生委員の方々にも送付しご覧になって頂いています	コロナ禍により、令2年1月以降は書面開催としており、活動記録報告書を関係者に送付しているが、運営に関する意見・要望を貰うことにはないが、地域からの参加者を民生委員3名としている。身近な町会などからの参加がないことや、家族への議事録配布を今後の課題とする。	理念にある、地域と共に行う実践には自治会やその他、地域からの参加者が望まれる。また、報告書送付時に要望や意見記入の書類添付の工夫と、議事録(報告書)を家族にも郵送し運営に対する意識を高める様に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	池田市のグループホームの会が今までは、3ヶ月に一度ありましたが、コロナ禍にて現在は休止されています 市の地域支援課とは連絡を取り、事故報告などの対応などを相談しています	高齢福祉課から感染予防対策の研修やワクチン接種・PCR検査などの連絡がある。火災訓練の開催時期や転倒・骨折事故の状況確認など常にFAXが送られ密に連絡を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で研修を行い、身体拘束の内容とその弊害は全員が認識し、身体拘束適正化検討委員会を設置し、3月に一回会議を開き利用者の人権を守るよう努めている。ご家族へは、身体拘束について説明し十分理解していただき、自由な暮らしを支援するための工夫に努めています	身体拘束等適正化のための指針の下、3ヶ月に1回委員会(事例検討など)を開催している。骨折・入院・退院後の転倒防止について、家族からの拘束要望もあったが、見守り強化や生活リハビリなど話し合いを重ねて、事故に繋がらないようケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に、高齢者虐待防止関連法について研修を行い、施設内での虐待が見すごされることがないように利用者の身体状況・精神状況にも注意を払い、防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、必要時には支援できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また重度化に伴う医療費負担についてもご家族と話し合っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に声掛けしています	コロナ禍での対面の面会が難しくガラス越しやライン通話での対話の中で希望を聞いている。また排泄用品や日用品の持ち込み時にも、意見・要望を聴いている。近時では具体的な事案は無いとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や大事な決定事項は、現場の職員の意見・提案をミーティングによる聴きとりや個々に面談を行うなど機会を設け、反映させ、活かしています	日常的に管理者と話す機会が多い。調理選任者が休日の職員増員、重度者対応の浴用リクライニング購入など、現場の要望は反映されている。職員は、レクリエーション・居室担当などの役割分担がありそれぞれが運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、処遇改善加算の取得や研修の機会・有給休暇の取得により、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め、技術や知識を身につけていくことを支援しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍であり、池田市グループホーム会や勉強会の活動が縮小されている為、参加していないが研修動画などを取り入れています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、悩み、不安なこと、要望に対し出来るだけ傾聴し、ご家族と連携をとりながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思とご家族の意思を傾聴し、相互と話し合いを重ね、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人の状態に応じた支援を見極め、ご家族に説明しケアを行い、状態の変化があれば本人ご家族と話し合い、状態に合わせた支援を行い、他のサービス利用も含めた対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族と同じように感じていただくため、本人の気持ちに寄り添っている。また、生活の中で本来もっている個性や力の発揮、暮らし方などを知ろうと努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常にご家族と連絡を取りながらご家族の思いや意向を傾聴し受け止める様努めています コロナ禍で面会もガラス越しなどで行い、リモートでの面会を行っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの物をお持ちいただいたり、電話にて話をさせていただくようにしています 10月の緊急事態宣言解除後は希望に応じ自宅に一時帰宅するなど対応しています	コロナ禍でが面会難しくなっているが、電話などで家族や親戚との関係継続に努めている。総体として馴染みへの関心は薄くなっているが、階下のサービス利用者が入居となり、諸行事での顔馴染みが友達として良い関係に繋がりを、周囲へも良い影響を及ぼしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士談笑されたり、一人ひとりでできることできない事を職員で把握しそれぞれに役割分担し、共に支え合えるような支援に努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにて本人の生活史など把握し、職員で共有しています 日々の生活の中での関りにより利用者の表情や状態を観ながら日頃との違いを観察し本人本位に出来るように努めています	日々の普段の話し合いや時々表情や態度から、入浴中での会話の中で要望や意向の把握に努めている。慈しみと敬意を規定に、介護する側のケアの先取りにならない、レクリエーションや散歩・食事など、その人らしい暮らしを支援したいと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やアセスメント、日常生活の中で観察し、自分らしく暮らして頂けるように、これまでの暮らしの把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々観察、洞察、気づき等、意見を出し合い、みんなで共有し、カンファレンスをその都度行い話し合う機会を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・医療と連携し、現状に即した介護計画を作成している。また、本人の状態の変化に合わせ、臨機応変に介護計画は見直しています	個別の介護記録、カンファレンス記録、モニタリング記録を基にし、利用者・家族の意向を入れ、主治医の居宅管理指導書(計画書)を貰い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、現状に応じたケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態や状況に合わせて既存のサービスに捉われずに柔軟に対応しています (例)食事形態をその日その時の状態にあわせている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はお祭りの参加やボランティア・訪問マッサージなどの利用を行っていたが、(現在は自粛している)自粛解除後の再開を予定しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人及びご家族の希望を大切に、希望に応じたかかりつけ医で、常時連携をとりながら、適切な医療を受けています	3名のクリニック医師と1名の精神科医師を夫々の状態に合わせてかかりつけ医としている。何れも居宅療養管理指導の下に、訪問診療を受けている。他の専科はかかりつけ医の指示で家族対応とするが、事情により柔軟に対応している。尚、医療連携体制加算Ⅲの取得し、看護師としての管理者と複数のかかりつけ医の存在が利用者の安心・安全に貢献している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、常にご利用者を観察し異常や変化の情報や気づきを、いち早く職場内の看護師や訪問看護師等に詳しく伝えて相談し、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けれるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した際、安心して治療ができるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者・ご家族とのカンファレンスに参加させて頂き、情報交換やケアについて等の相談し、ご本人・ご家族の負担軽減に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、段階ごとにご本人・ご家族・主治医等ケア関係者と意向を確認しながら、事業所でする事を十分に説明し、対応方針を共有し、その都度ご家族や医療関係者と連携を図り、共にチームで支援に取り組んでいます	重度化・終末期対応については、入居時に引き続いてその必要期に丁寧な話し合いとカンファを重ね、3名のかかりつけ医夫々の協力を得ながら、日常ケアの中で本人の尊厳を守り、家族の納得する良いお別れを目指している。看護師である管理者とベテラン職員で、半年にわたる対応と短日での対応を含め、昨年度3名と本年8月に1名の看取り経験を有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに応急手当・初期対応の訓練はしている。急変や事故発生時は職員・ご家族・医療機関と連携しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に利用者の状態に合わせた避難方法を行っています。運営推進会議などで地域の方に協力をお願いしている。水害訓練も(垂直避難)実施しています	規程の訓練と水害時の垂直避難訓練を、階下のデイサービスと合同で実施している。コロナ禍以前は、避難所経路の確認と地域の防災訓練に職員参加を行っているが、災害時の地域との協力についての具体策は、引き続き努力する方向にある。また、災害時の事業継続計画については、会社組織としての準備態勢にあるとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉をしっかり傾聴し、表情などを受け入れ、一人の人として人格を尊重した言葉かけを行っています	その人の人生経験や家族関係を識り、認知症パターンからの現況を理解して、先走りしない洞察で共に暮らす先輩としての接遇に努め、親しさに慣れることなくお互い言動に注意しなければならないとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、信頼関係が築けるよう取り組み、本人の希望や願いを意図的に引き出すよう取り組んでいる。また、自己決定できるように働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望んでいるペースに合わせて動きや状態を見守りながら、一日の過ごし方を柔軟に変え支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みの服装を選んで頂き、その人らしい身だしなみが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事が楽しみでもあるのでお好きなものの希望がある時に柔軟にメニューを変更している事もある 片付けなどできる方にはお願いをしています	元料理人が専任として、献立・食材調達・調理を担い、好き嫌いにも配慮した食事を提供している。リビング中に美味しい匂いが漂い、食欲をそそっている。朝食と専任者休日は、職員が手掛けている。4名が介助を必要としているが、時間差で調整しゆっくりと食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を観察し、食べる量・カロリー不足・栄養の偏り・水分不足が起こらない様十分に気を付けている。また、食べ物・飲み物の好み・食事形態・食べるタイミングなどにも配慮を行って支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力を把握し、毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的に訪問歯科で受診していただくようにしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく声掛けトイレ誘導をしています 現在、自立1名、リハパン使用4名(1人は日中のみ)、オムツ4名で夜間は安眠妨害にならないように4時間おきに確認しています	夫々の状態、状況(水分と食事摂取量・排泄量・習慣・疾患など)の日々の記録を基に、トイレでの排泄を自立と捉えて適宜・適切に対応している。排泄用品を家族持ち込みとして、状態変化に応じて本人に合ったものを説明することで、ケア全体についての家族との関係性も良好だとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として体操を行い水分補給や繊維質の多い食事を提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に無理強いすることなく、一人ひとりの意向を第一に体調を見ながら、くつろいだ気分で入浴できるように心がけて支援しています	週2回を基本として、柔軟に対応している。昇降機を使つての浴槽は、職員の負担なく湯船に浸かれることで、お風呂が好きの声になっている。浴用のリクライニングによるシャワー浴は、寝たきり状態や終末期での入浴対応に、本人と家族はもとより、ケアする職員にとっても安心と喜びになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や一日の流れで活動状況・体調など総合的に把握し、適度に休息を持ちながら夜間安眠の為、日中の活動量を増やす支援を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法・用量を理解し、呼称・ダブルチェックを行い、服薬忘れや誤薬を防いでいる。本人の状態の経過や症状の変化を観察記録し、医療関係者に情報提供は必ず行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品など気分転換できるよう努めており、それをケアプランにも反映しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、以前のように積極的な外出支援はしていないが、天候や利用者の体調に合わせホーム周辺でフラワーガーデンへでかけるなど近辺への散歩を個々で行っています	コロナ禍のほぼ2年間は、遠近共に外出の機会を十分に持ち得なかったが、頃合いを見ながらの周辺散歩や玄関先での外気浴は行っていた。手作り弁当を持っての花見を計画し、心と体の機能低下を防ぐための工夫と努力を続けていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、コロナ禍の為、スーパーへ出掛けることは自粛しているが、コロナ前は行っていました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインを用いて家族様との会話やオンライン面会を援助しています はがきを家族様宛に書くこともあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節のポスターを作って貼るなどして、自分の力でその人らしく安心して過ごせるように、また、危険防止や清潔感に配慮し、生活感・季節感を取り入れ、居心地よく自由に過ごせるよう取り組んでいます	お互いの相性や固有の症状・状態に配慮した席次で、穏やかな落ち着いた居場所づくりがある。近在の高校生から寄せられた季節ごとの大きなポスターと共同制作の貼り絵が、明るいきらびやかな彩りを、集いの場が心地よく保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時などは静かな空間を提供し、気の合った利用者様同士で積極的に話せる環境を整えています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が思い入れのある荷物を持ち込まれ、安全も考慮しながら配置し、本人が心地よく過ごせるような環境づくりに取り組んでいます	既設のベッドを好みの位置に定め、クローゼットとカーテン仕切りの収納箇所、持ち込みの小箆箆ですっきりと整理された居室は、テレビ・写真・思い出の小物がその人らしさを窺わせる雰囲気があり、入居歴や男女差もある中で落ち着いたマイルームとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた、自分の力で動けるよう個別の設備・道具を設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような工夫に努めています		